

平成30年8月27日

東京二十三区清掃一部事務組合

## 中防不燃・粗大ごみ処理施設整備事業計画(素案)説明会 におけるご意見・ご質問への見解について

### 1 素案説明会の開催状況

日時	会場	出席人数
7月7日(土) 午後1時30分～3時00分	有明清掃工場見学者説明室	23名
7月14日(土) 午前10時～11時30分	大田区役所2階201・202 会議室	18名
	合計(延べ人数)	41名

### 2 いただいたご意見、ご質問の内訳

説明会場	ご発言	1名
	用紙提出	0名
メール・FAX・郵送		1名
合計(延べ人数)		2名

### 3 区民の皆さまからのご意見・ご質問とそれに対する見解

素案説明会において、区民の皆さまからご意見・ご質問をいただきました。  
いただいたご意見・ご質問の内容と、それに対する当組合の見解をお示しします。

## 1 全体計画について

No.	ご意見・ご質問の要旨	当 組 合 の 見 解
1	新しい施設ができれば、23区全部の不燃・粗大ごみを処理することになるのか。	新施設稼働後も、ごみの収集体制に変更はありません。現在、中防ごみ処理施設へ搬入しているごみについては中防の施設にて処理し、京浜島のごみ処理センターへ搬入しているごみは京浜島の施設で処理を行っていきます。
2	不燃ごみと粗大ごみを一つの施設で処理することは、今まで粗選別していた大型家具や畳等のごみ種・形態に係らず不燃ごみと一緒に破碎処理するのか。	新施設においても、現状と同様に不燃ごみと粗大ごみを別々に搬入して貯留し、各々のコンベヤで破碎機へ投入していきませんが、高速回転破碎機以降の設備については同じラインで選別等の処理を行っていく計画としています。 また、畳等のそのままでは破碎機に投入できないごみについても、現状と同様に専用のせん断機等にて前処理を行う計画としています。
3	不燃ごみと粗大ごみを一緒に処理することは、ガスボンベと木製の物を一緒にすることで火災が起きるのではないのか。	新施設においても、現状と同様に不燃ごみと粗大ごみを別々に搬入して貯留し、各々のコンベヤで破碎機へ投入していく計画としています。 不燃ごみは、火災の要因となるスプレー缶等が混入している可能性があるため、低速回転の破碎機により粗破碎し、ガス抜きを行った後に高速回転の破碎機で処理していくことで、火災を予防する計画としています。
4	蛍光管等を不燃ごみとして回収している区があり、水銀含有により可燃物の焼却はできないのではないのか。	今後の資源循環施策に関する区市町村と都との共同検討会において、「廃蛍光管等の埋立ては2019年度末を持って終了」として23区が分別回収等の取組を進めており、新施設には搬入されないと考えております。
5	清掃一組の施設として、小型家電などを事前にピックアップすることは考えていないのか。 また、埋立処分する不燃物の中から陶磁器やガラスなどを回収し、有効利用することは考えていないのか。	本施設へ搬入されるごみについては、23区において資源回収したのちに清掃一組の施設へ搬入されているため、清掃一組がピックアップして回収することは考えていません。ただし、危険物や処理不適性ごみに関しては、現状と同様に受入ヤードにて抜取りを行う必要があると考えております。 また、埋立処分する不燃物は、細かく破碎された様々な物が混ざっているため、陶磁器やガラスなどのみを回収するのは難しく、有効利用することは考えていません。

No.	ご意見・ご質問の要旨	当組合の見解
6	乾電池の分別回収や拠点回収をしていない区もあるが、23区として乾電池が埋立処分されない取組を進めて欲しい。	ごみの収集については、分別回収や拠点回収を含めて23区が行っています。清掃一組としては、23区と連携し、必要な取組を行っていきます。
7	「清掃工場等のごみ性状調査」によると、中防不燃ごみ処理センター及び京浜島不燃ごみ処理センターに搬入される不燃ごみにペットボトルが含まれている調査結果となっている。23区に現状のごみ性状調査結果を伝え、資源物がごみにならない施策の推進を行って欲しい。	処理不適性ごみや資源物が清掃一組の施設へ入らないように、今後も23区と連携しながら、啓発活動等に取組んでいきます。
8	埋立量が可能な限りゼロとなるような施設にして欲しい。	新しい施設では、選別精度を向上させ可能な限り埋立処分量の削減に努めていきます。

## 2 プラント計画について

No.	ご意見・ご質問の要旨	当組合の見解
1	時間当たり70トンで、35トンが2系列というのは破砕機の容量、処理能力のことだと思ってよいか。	時間当たり35トンの処理能力を持った破砕機を系列ごとに設置し、2系列の合計で時間当たり70トンの処理能力になります。
2	細かく破砕したら、どのようなメリットがあるのか。	不燃ごみや粗大ごみは、単一の材質で作られているものは少なく、鉄やアルミ、プラスチックや木材など、異なる材質のものを組合せて作られています。したがって、細かく破砕することで、より材質ごとに分けられることが可能となりますので、選別精度が向上します。